

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400142		
法人名	社会福祉法人 福寿会		
事業所名	グループホーム 日田園		
所在地	大分県日田市大字石井字熊ノ下711-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームで笑いが多い施設である。お互いに冗談を言いあったり一緒に活動を楽しんだりするなど、和気あいあいとした環境づくりに取り組んでいる。コロナ禍で家族との面会がままならず、地域交流の機会も本年度はなくなっているが、交流ができない時期でも車での外出の機会を設けて気分転換を図る様働きかけている。家族との面会の機会も減った中で、月に1回入居者の日々の様子をお知らせしている。
 法人の研修などままならない部分もあるが、職員の資質の向上の為気づいたことなど声掛けし指導できる人間関係を構築している。専門的な知識と共に、入居者の尊厳を大切に傾聴し受容する事により寄り添う介助を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の年間目標「ワンチーム」を掲げて、チームでケアに取り組んでおり、利用者の笑顔と明るい雰囲気のある家庭的な事業所である。小規模多機能型施設が併設している。
 ・利用者一人ひとりの尊厳を大切に傾聴し受容する、そして利用者の得意なことや出来ることを生かし、それぞれのペースで日々を過ごせるよう寄り添う介護に取り組んでいる。
 ・各種研修や同業者との交流を通じ学ぶ機会を設け、職員の資質の向上を図り、サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家族とのつながりを大切にしているがコロナ禍で関わりが持てない分、ひとり人の思いなど尊重し、穏やかに過ごせる工夫をしている	地域に根ざした法人の理念と毎年事業所の目標を掲げ毎朝唱和している。コロナ禍で制限がある中、理念に基づいたサービスを提供できるよう工夫し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で運営推進会議などの開催が難しいがグループホーム内での活動や暮らしを地域へ発信する。運動会などへの参加もできず、小規模多機能と併設しており通いの方との交流を行う	コロナ禍で地域との交流が難しい中、法人の新聞に事業所の活動や暮らしを掲載し地域へ発信している。また併設の小規模多機能の利用者との交流を通して地域との繋がりへの支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が発行している新聞にて認知症についての情報を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議などの開催が難しいが実施予定の月に資料を作成し自治会長や市にお渡し、意見を頂いた。10月には開催し意見を直接聞くことができた。	運営推進会議が開催できないときは資料を送付し意見をもらい、サービスの向上に活かしている。10月には開催出来、事業所の状況等報告し、コロナ対策についての取り組みを話し、アドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時の報告や相談事項についてアドバイスもらっている。	市担当者は毎回運営推進会議に出席しており、事業所の取り組みや状況を伝え、アドバイスや情報提供していただくなど協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学びを深めるために今年度は「身体拘束疑似体験研修」を職員全員に実施。実際経験することで、日頃の自身のケアについて見直すきっかけとなった。	今年度は「身体拘束疑似体験研修」を実施し、身体拘束禁止の行為をより深く理解し、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修を受け、職員研修時などで高齢者虐待の新聞記事を事例として学び、その度に自己を振り返り日々のケアについて考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修にて学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ひと項目ずつ説明し、疑問など解消してご理解いただくように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族と直接会うことが困難な面があるが、入居者からは話の中で聞き取りを行うようにしている。またご意見箱などは常時設置して意見を求めている	家族の要望等は面会等制限があるため、電話や毎月の報告書郵送時に意見等を伺うようにしている。利用者は会話等の中から聞き取り、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングにて入居者の直接的な介護や、業務について意見をもらい、運営に反映していくように努めている	毎月のミーティングにて運営に関する意見や提案を聞く機会をもうけている。夜間帯のトイレ介助方法について話し合い、本人の思いを考慮しポータブルからトイレ誘導にてトイレでの排泄の自立支援につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績を把握し賞与に反映しており、自己評価、上司による評価に応じてキャリアアップする仕組みを作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を実施、全職員に参加を求めている。法人内での研修では多職種との連携を深め、スキルアップに努丸様にしている。また資格取得のための研修なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと協議会を作り、2ヶ月に1度会議を開催。事業所ごとの状況や困難事例など報告しサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で聞き取ることが困難な場合は日常の会話の中から本人などの要望など傾聴し、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より要望など聞き、日頃の支援などに反映するように心掛け、本人・家族と職員が密な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き、その時に必要な支援ができる様柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士でより良い関係性が持てるように努めている。必要場合は職員が加わり個々の役割が持てるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の様子など報告し本人の状況について家族にも知らせる事で、必要時には家族の支援をお願いするよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍で外出することがままならず、面会についても制限している。状況を見ながらの支援となっている	病院への定期受診の機会を利用したり、馴染みの美容院に出かけるなどの支援をしている。家族との面会も難しい中、電話を掛けたり状況により窓越しでの面会など関係性が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとり一人の個々を尊重し、共同生活上での共助ができる関係性が持てるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との関係性を保ち、必要時にはフォローするよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り入居者の希望や意向に沿えるよう努めるも、施設での生活内では沿えない内容も多く「家に帰る」ことについてが主になっている。	日常の関わりの中で、会話や表情、行動から思いや意向の把握に努めている。また困難な場合は、24時間シートや家族から要望を伺い、職員で検討し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話や会話の中で聞いた話について家族に確認するなどし、以前の生活などを把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態を把握し共有し、入居者それぞれの有する能力を活かせる活動を行うよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活状況や身体状況について全職員で細かく観察したり、本人との話より課題把握を行い介護計画を作成するよう努めている	本人・家族の要望を聞き、記録等を基にモニタリングを行い、本人がよりよく暮らせるように職員全員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使用し常に様子を細かく記入している。小さな変化を見逃さず職員間で共有しより良い支援ができる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で柔軟な支援ができない場合、家族に対して協力を得るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度コロナ禍で制限があるが、訪問理美容を活用をしたり、併設している小規模多機能と交流の機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診を継続している。基本的には家族同伴にて受診してもらうが必要時には職員同行し日々の生活について報告し助言を受けるよう努めている	入所以前のかかりつけ医へ継続して家族と受診している。家族の対応が難しいときや必要時には職員が同行し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での変化について看護師や管理者に報告し、早期対応・受診ができるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化に戸惑うことが多く、日々には生活では現れない症状がみられることもある為、入院時状況提供票を提出し、医療機関との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について、当事業所では対応できないことを説明し、新規入居時重度となった際の在り方に説明している。以降の対応についての方向性について本人や家族と確認するよう努めている	重度化や終末期のあり方について、入所時に事業所では対応できないことや重度化した場合の方向性について説明している。状態の変化に応じて早い段階から本人・家族と話し合い、事業所で出来ることを十分に説明し支援している。移転先の特養や病院との協力体制も築けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修などで救急法や事故発生時への対応を確認している。マニュアルを作成し適切な対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での水害などの災害について研修を受けている。併設している小規模多機能と合同で防災訓練を実施して備える(避難箇所の確認など)	併設している小規模多機能と合同で防災訓練をし避難場所の確認等をしている。また法人内で職員は防災に関する研修(災害想定シミュレーション研修)を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で入居前の生活歴や職歴について共有し本人の得意とする場面での声掛けや働きかけを行い誇りが持てるよう努めている	利用者の声を傾聴し受容することで、得意なことや出来ることへの支援に努め、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定ができるように本人に合わせた対応ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムは大切にしながら、本人のその日の体調や気分・ペースに合わせて過ごしていただくように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合うおしゃれができるように衣更えなど家族にお願いしている。自ら選ぶことができるように支援するよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の厨房にて調理したものを搬入してもらい盛り付け、適温で配膳・食してもらいように努めている。毎月1週間誕生食と提供。普段と違った献立にて楽しんで頂いている。食事の下膳などお手伝いいただくことも多い。	3食法人で調理したものを事業所で温め盛り付けている。毎月1週間誕生食として、いろいろ変わったメニューを提供し、誕生月の人にはケーキを添えたりと楽しみの一つになっている。食事の片付けは利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し、把握している。食事形態はひとり一人に合わせて提供している。食事量が低下している利用者については本人の好むものを提供できるように支援している(食事以外のも)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け・誘導・支援を行っている。準備や誘導・介助などの支援をひとり一人に合わせて行い、本人ができることについては継続できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人に排泄パターンを把握し声掛け、誘導している。声掛けに対して拒まれる方へは無理強いせず誘導時の声掛けなど工夫するなど努めている	排泄パターンを把握し、声掛け、トイレへの誘導で排泄自立の支援をしており、自発的にトイレへ行く人が多い。支援の工夫により夜間ポータブルからトイレでの排泄に変わった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて便秘薬など服用してもらい調整する方もおられる。体操や散歩など勝い運動への参加も促すよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の分け週3回の入浴を提供している。本人の希望に沿うことも心がけているが、現状決まった時間、曜日にて提供している。入浴動作は支援しながらも本人の入浴の仕方を重視し、安全面に注意して行っている	入浴は基本週3回、曜日を分けて午後提供。本人の希望で次の日に入浴もできる。浴槽は個浴でお湯はかけ流しにし、ゆったりと入浴を楽しんでもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の活動について制限を行わず、本人の希望に合わせて休むことも可能である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬について配薬は看護師が行っている。内容については薬情など常に確認が出来るようにしている。服薬の確認や変更があった際には職員間で共有し、状態を確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人得意不得意なことについて理解し、無理強いせず役割を持ってもらっている。職員や利用者と楽しむことができるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出が難しいものの、施設内に籠らず季節を見てドライブや戸外への散歩を行うように努めている。今後も状況を判断しながら実施していくよう考えている	コロナ禍で外出が難しい中、近所のあじさいや桜を見に行ったり、事業所の周りを散歩するなど工夫している。また玄関先にベンチを置き、日向ぼっこをしながらおしゃべりや歌を歌ったりして楽しみながら外気浴ができるように環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では本人の金銭管理は行っておらず、家族より少額の現金を預かり物品など購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や家族からの電話には柔軟に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は落ち着いた色遣いで統一。以前はデイサービス施設にて今は広々としている。季節が感じられる配慮を行っている。コロナ禍で換気や消毒など体調面へも配慮するよう努めている	共用空間は広く、温度、喚起、湿度を整え、快適に過ごせるよう配慮し、季節が感じられる飾りつけをしている。また、新聞を読んだりテレビを見たり思い思いの場所でゆったり過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の居間では、食事用のテーブルやテレビ前のソファ、廊下に置いてある椅子など自由に使用し、思い思いに過ごせる場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が手を伸ばし壁に手が届くほどの広さで、自宅から家具や電化製品などの持ち込みは自由で居心地よく過ごせるように家族にもお願いしている。必要な方には安全への配慮としてセンサーマットを使用して転倒予防に努めている	居室は家族と相談しながら、馴染みの物や手作りの作品を飾り、個々人が居心地よく過ごせるように部屋作りがされている。夜間の転倒予防にセンサーマットを使用し安全が保たれている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間の排泄について、ポータブルトイレやフロアのトイレを使用するなど個別に対応しており、使用後に自室に戻れたりベッドに安全に戻ることができるような工夫をしている		